

シグマ特別専門委員会・シグマ研究委員会本委員会議事録

日 時： 平成元年6月23日（金） 11:00～17:00
場 所： 日本原子力研究所 本部 第3会議室
出席者： 鹿園（委員長、原研）、赤石（北大）、飯島（NAIG）、五十嵐（原研）、大竹（データ工学）、神田（九大）、菊池（原研）、喜多尾（放医研）、北沢（東工大）、木村（京大）、瑞慶覧（日立）、関（泰）（原研）、関（雄）（MAP I）、高橋（阪大）、竹田（阪大）、中嶋（法政大）、中村（原研）、長谷川（原研）、馬場（東北大）、松延（住友原工）、水本（原研）、宮原（核融合科研）、村田（NAIG）、吉田（NAIG）、若林（動燃）、天道（理研、橋爪代理）、平岡（原研、金子代理）
オブザーバー：井頭（東工大）、岩本（原研）、柴田（原研）、中島（原研）、中川（原研）

配布資料

1. 運営委員会（63年9月～元年6月）議題
2. 第3期諮問・調整委員会答申と第4期諮問・調整委員会への諮問事項
3. 平成元年度シグマ特別専門委員名簿
4. 「原子炉崩壊熱基準」研究専門委員会
5. 原子力学会（核データ・炉物理）合同特別会合
6. R I K E N 荷電粒子データグループの現状
7. 昭和63年原研物理部における中性子核データの測定活動
8. 平成元年度核データ専門部会組織
9. 炉定数専門部会活動報告
10. 崩壊熱評価WGと核種生成量評価WGの活動報告
11. 「International Conf. on Fifty Years Research in Nuclear Fission」のプログラム
12. 「International Conf. on 50 Years with Nuclear Fission」のプログラム
13. 核データ評価の国際協力
14. 1989年核データ研究会準備状況

議 事

1. 報告事項

(1) 運営委員会報告

五十嵐氏が配布資料1により、昨年9月から本年6月までの運営委員会（63年度第3回～第7回、元年度第1回～第2回）の主な話題を報告した。

(2) 諮問・調整委員会報告

木村氏が配布資料2を説明した。第3期諮問・調整委員会答申は昨年の本委員会に提出された案を修正したものであり、それを承認した。

(3) 事務局報告

五十嵐氏が、シグマ委員会関係会合数、データ利用申し込み件数、データ入手件数、核データ国際会議、核データセンターを訪れた外国人等について報告した。

2. 委員会人事

(1) 本委員および運営委員の一部交代

五十嵐氏が配布資料3を説明した。石井三彦氏（原研）、吉田正氏（NAIG）が新たに本委員となる。また、石井氏、吉田氏の他菊池康之氏（原研）が運営委となる。村田氏（NAIG）が運営委を止める。

(2) 委員名簿の承認

配布資料3に示した35名の本年度の本委員名簿を承認した。

3. 原子力学会関係事項

(1) 「原子炉崩壊熱基準」研究専門委員会

配布資料4により、委員会開催状況、報告書の内容等を中嶋氏が報告した。報告書は今年中には出来上がる予定である。

(2) (核データ・炉物理) 合同特別会合

中川氏が1988年秋、1989年春の特別会合および、今年秋の大会での特別会合予定を報告した。

(3) 学会誌特別記事

菊池氏が「JENDL-3」特集記事、「シグマ委員会2年報」の予定を報告した。また、今年度から川合氏（NAIG）が菊池氏に代わって編集委員になった。

(4) その他

木村氏（原子力学会企画委員長）から、核データ・炉物理関係から学会での招待講演の提案がないので次の年会には出して欲しい。また、次の「原子力総合シンポジウム」のテーマの提案や意見があったら出して欲しいとの話があった。

また、菊池氏から原子力学会欧文誌への投稿が少ないとの話があった。

4. 国内研究機関の核データの活動

(1) 荷電粒子核データファイル（NRDF）

赤石氏が北大で行っているNRDF整備状況を報告した。現在は46Mバイトのデータが格納されており、データチェック用プログラムやEXFORへのフォーマット変換プログラムを整備している。

(2) 理研荷電粒子データグループ

天道氏が配布資料6を説明した。理研では、IAEAから依頼された荷電粒子データの編集、 $A=177$ 核種のAチェーン評価、secondaryソースからの文献情報の収集を行っている。

(3) 原研物理部

水本氏が配布資料7で、タンDEM加速器での高速中性子断面積の測定、リニアックでの中・低速中性子断面積の測定について報告した。

(4) 原研FNS

FNSで行っている13.6～15.1 MeVでの核融合炉材料核種の放射化断面積の測定、2次ガンマ線生成断面積の測定について中村氏が報告した。

(5) A&M関係

宮原氏が、A&Mデータの編集作業や、IAEAからの宿題になっているプラズマと壁との相互作用データファイル作成について報告した。

5. シグマ研究委員会63年度活動報告および元年度計画

(1) 核データ専門部会

JENDL-3作成が終了したことにより、63年度末に今後の活動や組織について検討を行い、今年度の新体制を決めたこと(配布資料8)を水本氏が報告した。PKAスペクトル、放射化断面積等特殊目的核データファイル関係の63年度作業について飯島氏が補足説明をした。

(2) 炉定数専門部会

配布資料9により、各SWGの63年度作業と今年度の作業計画を長谷川氏が報告した。

JENDL-3のガンマ線データのテストについて菊池氏が発言し、問題点を説明した。現状のデータには問題点があるので、完全公開までには修正すべきとの意見が多かった。

(3) 核構造・崩壊データ

吉田氏が配布資料10により、崩壊熱評価および核種生成量評価両WGの63年度作業と今年度の作業計画について報告した。

(4) 常置グループ

核構造データ評価グループおよび医学用原子分子・原子核データグループについて喜多尾氏が、また、CINDAグループおよび核データニュース編集委員会について中川氏がそれぞれ報告した。

6. 特別講演

(1) 核分裂発見50周年記念国際会議

岩本氏が今年の4月3日～7日に、ベルリンで開かれた「International Conference on Fifty Years Research in Nuclear Fission」について、また、瑞慶覧氏がゲイザースブルグ(Gaitherburg, 米国)で開かれた「International Conference on Fifty Years with Nuclear Fission」について、それぞれ会議の様子を報告した。

(2) JENDL-3の完成

柴田氏が、JENDL-3の評価、ベンチマークテストの結果について報告した。菊池氏が動燃と原電が中心になって行っている炉定数調整WGの活動について説明した。

7. 核データ評価の国際協力

五十嵐氏が配布資料13により、JENDL、ENDF/B、JEF/EFFプロジェクト間の国際協力について説明した。この他にも、核データ測定に関する inter-laboratory working group や IAEA による核融合炉用の FENDL 作成の動きがある。国際協力を今後のシグマ委員会活動の1つとして考えていく必要ありとした。

8. 核データ研究会

瑞慶覧氏が1988年核データ研究会について報告し、井頭氏が1989年核データ研究会の準備状況(配布資料14)を説明した。